

## 観察道（木道）あれこれ

踏圧に弱い湿地では、通常、観察道（木道）を設置してそこに生きる動・植物を保護しています。

各地の観察道を見てみると形状や材質など様々で、猪の瀬戸湿原に設置するにはどのような木道にすればよいか、研究の余地がありそうです。

写真Aは坊ガツル湿原のキャンプ場近くに設置されたもので比較的安価につくられています。

写真Bは尾瀬ヶ原の木道で、近くに生育するカラマツ材を用いて地権者の東京電力が社費で作っているようです。

写真Cは汽水域のマングローブ林内につくられた立派な木道です。強固な手摺も付いています。

写真Dは国の天然記念物に指定された湿地の木道で、防腐剤を注入し、着色剤も指定され、国の補助を受けて作られたものです。

写真Eは転落（侵入）防止ネットを備えた観察道ですが、写真撮影や小さな生き物を観察するにはネットが邪魔になることもあります。



A 簡易な木道（坊ガツル）



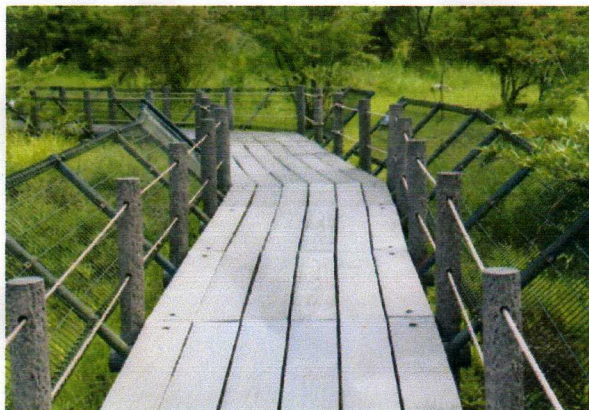
B 多人数の重さに耐える厚さ（尾瀬ヶ原）



C 海水にも耐える加工（西表島）



D 耐水性の加工をした（宮崎・川南）



E 侵入防止ネット付き（宮崎・高鍋）